

1. 必修領域 (1講習)

領域・講習名	講習の概要	担当講師	会場	時間数	日程	定員
【必修】 教育の最新事情	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、これまでの研究によって得られた知見に基づいて講義する。教育の最新事情と今日的な課題についての理解を深め、教員が自信と誇りを持って、子どもを指導できるように、教員の資質の向上を目指す。	伏木 久始 (信州大学学術研究院・教育学系 教授) 倉田 郁也 (佐久大学信州短期大学部講師)	佐久大学 講義室	6時間	令和2年8月8日(土) 9:00～16:10	200人 100人

※定員に変更がありますので、ご注意ください。

※赤字=変更箇所

2. 選択必修領域 (3講習)

領域・講習名	取り扱う事項	講習の概要	担当講師	会場	時間数	日程	受講対象者			定員
							学校種	免許職種、 教科等	職務経験等	
【選択必修】 教育相談	教育相談(いじめ及び不登校への対応を含む。)	学校では、子どもを巡るあらゆることが話し合われている。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが教育機関に配置されている今日、“相談”として相談室を訪れる生徒・保護者・親権者・教職員など来談者は多様である。当講習では主に専門的な相談室の立場から、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの違い、相談内容の内訳や分類及び助言などの対応方法について紹介し、自傷行為・他害行為、いじめ及び不登校の問題など教育現場の様々な困難な問題に関し理解を深めていく。	金高 茂昭 (佐久大学看護学部客員教授)	佐久大学 講義室	6時間	令和2年8月9日(日) 9:00～16:10	幼稚園 小学校 中学校 高等学校 特別支援学校	特定しない	特定しない	100人 50人
【選択必修】 教育現場における情報セキュリティの在り方	教育の情報化(情報通信技術を利用した指導及び情報教育(情報モラルを含む。))等	社会システムのICT化に伴い、教育現場もICT化が進みつつある。近年は児童・生徒達の将来を見据えたICT活用の教育だけでなく、現在の児童・生徒を守るための情報セキュリティが求められる。本講習では情報技術だけでなく、社会学・教育学などの知見から今日のICT社会を捉えなおし、教育現場における情報セキュリティの在り方について解説する。	三池 克明 (佐久大学信州短期大学部講師)	佐久大学 講義室	6時間	令和2年7月24日(金) 令和2年10月3日(土) 9:00～16:10	幼稚園 小学校 中学校 高等学校 特別支援学校	特定しない	特定しない	70人 35人
【選択必修】 学校、家庭及び地域の連携および協働	学校、家庭及び地域の連携及び協働	連携の定義、連携の必要性を理解したうえで、学校・家庭・地域社会の連携活動について学ぶ。 ①様々な事情を抱えながら成長発達していく現代の子どもを支える地域の社会資源を知る。②①を踏まえ、地域全体で子どもを支える体制づくりを考える。③連携体制を構築するための具体的な活動を検討し、提案する。①から③までを通して、学校、家庭、地域の連携および協働について理解を深める。	橋本 佳美 (佐久大学看護学部教授) 佐藤 嘉夫 (佐久大学・佐久大学信州短期大学部副 学長) 川口 桂嗣 (佐久大学看護学部助教)	佐久大学 講義室	6時間	令和2年7月25日(土) 令和2年10月17日(土) 9:00～16:10	幼稚園 小学校 中学校 高等学校 特別支援学校	特定しない	特定しない	50人 25人

※担当講師及び日程、定員に変更がありますので、ご注意ください。

※赤字=変更箇所

※「教育相談」については、6月22日(月)に定員に達しましたので募集を締め切りました。

3. 選択領域（8講習→7講習）

領域・講習名	講習の概要	担当講師	会場	時間数	日程	受講対象者	定員	備考
【選択】 高齢者の理解	超高齢社会の中ですべての人々が生き生きと暮らせるまちづくりのためには、学生や教員自身も体験していない高齢者について理解することが大切です。本講義では、加齢変化による生活への影響や、高齢者とのかわり方について演習を通して学んでいきます。また、地域社会との関係構築に向けて教員がどのようなことに留意して取り組めば良いかという点について、具体的な事例をふまえながら検討します。	安川 揚子 (佐久大学看護学部教授) 小野 美香子 (佐久大学看護学部講師)	佐久大学 講義室	6時間	令和2年8月10日(月) 9:00～16:10	幼稚園・小学校教諭、 中・高等学校教諭、養 護教諭	50人 25人	6月23日(火)に定員に達しましたので募集を締め切りました。
【選択】 健康障害を持つ子どもと家族	①小児期に慢性的な疾患を抱えることは、その子どもの生活や成長発達に大きな影響を与えます。子どもたちがその健康障害を抱えながら学校や地域で生活するためには、周囲の人々の理解と支援が必要です。本講義では、こうした健康障害を抱える子どもや家族の特徴、現状について概説します。 ②現代の子どもに多い健康問題に対して予防と対策が重要です。本講義では子どもの救急時のフィジカルアセスメント、救急処置、感染対策について理解を深めます。	鈴木 千衣 (佐久大学看護学部教授) 小林 睦 (佐久大学看護学部准教授)	佐久大学 講義室	6時間	令和2年8月23日(日) 9:00～16:10	幼稚園・小学校教諭、 中・高等学 校教諭、養 護教諭	80人	講習の中止
【選択】 歩けること=寿命 ドイツ足分析から学ぶ	独・整形外科靴マイスターより、基本足部解剖学から代表的な足部変形を学びながら、足が日常生活と成長にどう影響するのかを考察する。教育現場で自身と周囲を観察・指導するために必要な靴適合や足部分析演習・独フットプリント採寸や、日独靴文化比較論も日独通訳者より講演する。	坂江 千寿子 (佐久大学看護学部教授) 宮原 香里 (佐久大学看護学部講師)	佐久大学 講義室	6時間	令和2年7月26日(日) 令和2年8月23日(日) 9:00～16:10	幼稚園・小学校教諭、 中・高等学 校教諭、養 護教諭	70人 35人	6月18日(木)に定員に達しましたので募集を締め切りました。
【選択】 教育に活かす“対話”	看護は対象者との“対話”を通して展開します。“対話”とは人と人が向かい合い、話し、耳を傾けることで互いに思考を紡いでいくことです。“対話”は看護だけでなく、教育の場面でも大切な姿勢です。本講座では、私たちが取り組んでいる“対話”を重視した看護教育を紹介しながら、“対話”を用いた教育の進め方、“対話”のもつ力について学び、『対話を教育場面に取り入れるには』をテーマにワールドカフェを行います。	武田 貴美子 (佐久大学看護学部准教授) 内山 明子 (佐久大学看護学部准教授)	佐久大学 講義室	6時間	令和2年8月30日(日) 9:00～16:10	幼稚園・小学校教諭、 中・高等学 校教諭、養 護教諭	80人 40人	6月22日(月)に定員に達しましたので募集を締め切りました。
【選択】 多様な外国人児童と異文化コミュニケーション	多様な外国人児童が増加する日本では、どのように地域で共に学び共に生活を共に社会を築き上げることができるのか。教育現場を通じて子供たちや保護者への支援をどのように提供すべきか一緒に考えたいと思います。生活の場を大事にする介護外国人人材研究に長年取り組んできた視点から、日本社会により早く順応できるための支援が行えるよう、異文化コミュニケーション的の角度より講義とグループワークを行います。	廣橋 雅子 (佐久大学信州短期大学部准教授) 田中 由美子 (佐久大学別科助産専攻講師)	佐久大学 講義室	6時間	令和2年9月5日(土) 9:00～16:10	幼稚園・小学校教諭、 中・高等学 校教諭、養 護教諭	50人 25人	
【選択】 児童相談所における児童虐待の対応	午前の講義では、学校・保育所・警察・近隣住民から受けた児童虐待に関する通告について、児童相談所が、どのような初期対応(48時間ルール)を行っているのかを情報提供します。午後は、現在、児童相談所の現場で働いている職員(スーパーバイザー)を招いて、児童相談所における児童虐待の対応について講義をします。	倉田 郁也 (佐久大学信州短期大学部講師)	佐久大学 講義室	6時間	令和2年9月12日(土) 9:00～16:10	幼稚園・小学校教諭、 中・高等学 校教諭、養 護教諭	100人 50人	
【選択】 自殺予防を含めた教職員の心の健康づくり	児童、生徒とその保護者、同僚や上司等、さまざまな人間関係の中で勤務する教員には、こころの健康を保つための知識や技術が大切となります。前半では、ストレスやこころの健康、自殺問題について現状を理解しながら、有効な対策の一つとしていわれている『ゲートキーパー教育』について考えます。後半では、教員自身のこころの状態に気づき、その健康を保つためのセルフケアについて情報を提供いたします。	朴 相俊 (佐久大学看護学部准教授)	佐久大学 講義室	6時間	令和2年7月19日(日) 令和2年9月20日(日) 9:00～16:10	幼稚園・小学校教諭、 中・高等学 校教諭、養 護教諭	100人 50人	
【選択】 国際理解の進め方ー看護の国際協力を通して	日常生活の中で感じる国際化、各人の業務における情報のグローバル化、他国との国際交流の話を聞くにつけ、私たちは国際社会の中で日本人、国際人として生活する姿勢が求められています。幼、小、中、高校生がスムーズに他国籍の人の文化を受け入れることができる態度、お互いに理解し、尊重しようとする考え方は、周りの大人の態度や環境に影響される場合が多いと思われます。国際理解の進め方について、看護の国際協力の経験を紹介し、他国との共通点、異なる点を考察します。	東田 吉子 (佐久大学看護学部客員教授) 鶴岡 章子 (佐久大学看護学部教授)	佐久大学 講義室	6時間	令和2年9月2日(日) 令和2年10月10日(土) 9:00～16:10	幼稚園・小学校教諭、 中・高等学 校教諭、養 護教諭	60人 30人	

※講習の中止又は担当講師及び日程、定員に変更がありますので、ご注意ください。

※赤字=変更箇所